

第31回全日本トライアスロン皆生大会を終えて

実行委員長 増井幸一



皆様には大変な暑さの中、各セクションでご活躍頂きありがとうございました。今年には特に「皆が協力し、次を育て、楽しもう」と声を掛けました。各部長や昨年の部長、来年の部長候補の皆が、他の部の活動内容を理解しようとしながらしっかりと意見交換をし、青年中央会担当の部の事は皆の事であることを理解された結果、協力し合えたと思います。

予想外のアクシデントに「皆で何とかしよう」の言動も聞こえてきました。何をすれば良いのかが解れば楽しくなります。この活動でしか味わえない責任感と楽しさを感じて頂いた方も多いと思います。各部の活動は数ヶ月前から準備を進めますが、大会はたった一日で終わってしまいます。喜びや感動があれば失敗する事もあり、私達はトライアスロンに何が残せるのか？成果はどうなのか？と考える事もあるでしょう。目に見える形としては残らないかもしれませんが、この活動を通して会員皆様の心に感動と地域社会に奉仕する精神と会員相互の更なる友愛が生まれ、そして次の者へ受け継いでいくのだと思います。

マラソン部長 牧田継夫



マラソン部の「長」として参加した今年のトライアスロン。

正直いつつらかった…。普段は何があっても前向きであるが、上を向いて進めなかった事は一つ目の反省点であったと思う。

でも、部員には楽しんで欲しかった。つらい事もあるけど、先輩から受け継いだ「楽しみ方」を存分に感じて欲しかった。それ

も十分でなかった事が二つ目の反省。

三つ目に、詰めが甘かった。要領の悪さと相まってなんでも自分で抱え込み、直前部長と二人三脚でテンパってしまった。大事に至らないミスも多かった。

しかし、うれしい事もあった。それは「人材の成長」である。何物にも代えがたい収穫だ。ベテラン部員が率先して若手の面倒を見てくれた。

中央会活動も同じであるが、「同苦の友」を得、後輩たちが「成長」し、未来に「輝く」人材が発掘できるのもトライアスロンの醍醐味ではないだろうか。

その意味で、今大会は存分に楽しませて頂いた。

ボランティア部長 手島武司



今年のボランティア部長を務めました手島です。

良かった…楽しかった…。最後にゴール前で挨拶をしましたが、言ってやりましたよ大勢の前で、「本業は牛乳屋です」って(これは絶対に譲れなかった)。これが「か・い・か・ん」って感じ？TVやラジオにも出たし、これがボランティア部長としての醍醐味です。

肝心な部長としての活動は…。困った時には土岐・松江・永田副部长と総務の西村君がいるので、全部振った振った。歴代の部長の中で一番仕事をしない部長でした。

でも全てはボラ部の為。部長任せで、部長が動かなければならないことが多過ぎたので、仕事の細分化と分担化をすべきだと考えて採った行動です。(本当は仕事が忙しくて出来なかったものもある)ボラ部のみんな、ありがとうございました。3部長が協力してやれば10:30に最後の締め挨拶が出来るので、今後も今年を見習って皆で仲良く協力し合ってください。

何もなかった牛乳屋のボラ部長でした。

A S部長 岩田 剛



今年も暑かったですね。増井実行委員長からA S部長の任を受け、すぐさま「助さん・格さん」として白石会員・盛政会員に電話。お二人とも『喜んで!!』と二つ返事。でもちょっと嫌そうな雰囲気を感じ取った私は、とりあえず4月の下旬に第1回目の打合せ会と称して飲みました。今年は初めてのエイドステーション「オアシスイド」。

選手のおアシスになれるよう、どこよりも盛り上がるべく、A S部の運営スタッフと打合せ数回。オアシスイドのテーマは「わっしょい!!」合言葉は「喜んで!!」に決定して、私はじっと見ているだけ。人員配置は盛政副部長に、備品の準備は白石副部長にお任せでした。色々トラブルがありましたが、皆さんの力で乗り越えることができました。美保中の生徒達にはホント助られました。手島ボラ部長、牧田マラ部長と一致団結して31回のトライアスロンを無事終えることができ感無量です。だんだん!!

8月例会案内

と き：平成23年8月17日(水) 19:00~21:00
場 所：米子全日空ホテル
内 容：第一部 基調講演 鳥取県知事 平井伸治氏
講演テーマ「鳥取県の課題とビジョン」
～みんなで やらいや～未来づくり
第二部 討論会
担 当：第37期卒会予定者及び平成23年1月以降入会の新入会員

8月役員会報告

8月役員会が平成23年8月1日(月)米子食品会館にて開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。
・8月例会の件 ・9月例会開催の件 ・その他
※なお、詳細については各委員長までご参照ください。

編集後記

37期がスタートして早いもので1ヶ月が経ちました。今期は広報委員会が担当させて頂きます。メンバー全員で取組んでいきますので1年間宜しくお願いします。(第37期広報委員長 松尾友雄)

成長

相互理解と協調

第37号 2011. 8月

飛 雄

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 森脇哲雄 編集責任者：小川敦弘 37期広報委員会 印刷所：東京印刷機



鳥取県西部中小企業青年中央会
第37期会長 森脇 哲雄

大幸株式会社 代表取締役

S44年2月生まれ

〈中央会活動経歴〉

H12年度入会

H21年度 会計担当／H22年度 副会長

第37期スローガン

成長

テーマ

相互理解と協調

ご挨拶

鳥取県西部中小企業青年中央会第37期会長を務めさせて頂きます森脇哲雄です。

歴史と伝統ある当会の会長を拝命し改めて身の引き締まる思いが致しております。微力ではございますが、それらを汚す事のないよう一年間精一杯努めさせて頂きますのでどうぞよろしくお願い致します。

第37期はスローガンに「成長」テーマに「相互理解と協調」を掲げ、一年間活動させて頂きます。人としての成長・企業人としての成長をベースにそれらの成長を会の成長へと結びつけ、我々の大命題である「所属企業へのフィードバック」「地域社会へのフィードバック」に結び付けていけるような活動をしていきたいと思っています。

また当会以外の諸団体とも積極的に交流の場を作っていきたいと思っています。

一番はOBの諸先輩方との交流です。発足から37年目を迎える当会、OB会の先輩方だけでもその数は300名を超え、卒会された後も現在の当地域経済を牽引されておられます。従来通りの交流はもちろんですが、諸先輩方の知識・経験をもっと身近で感じさせて

頂けるような交流の場を企画したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

同世代の仲間との交流も積極的にしていきたいと思っています。

青経連での活動、近年始まった近隣エリアの青年経済団体との交流事業等、やはり他団体の方々と時間を共有できる事は我々の活動にとって計り知れないプラスになると思います。特に青経連での活動においては本年当会が幹事団体となっており、そういう機会には例年以上に恵まれる筈です。会員の皆さんにも積極的に参加頂き、いろいろと感じて頂きたいと思っています。

我々は同じ時代に同じ命を受け当会に集まりました。何よりもこの貴重な出会いを大切に、お互いに理解・尊重しあいお互いの成長を助長し合えるそんな一年にしたいと思っておりますので、会員の皆さんご協力の程よろしくお願い致します。

そして関わりあうすべての皆様、私達の成長を感じとって頂けるよう一年間精進してまいりますので、変わらずご支援賜りますようよろしくお願い致します。

新入会員

木嶋 康之 A型
暮らしのコンサルタント ワシザワ 営業主任
保険代理店業
〒684-0066 境港市芝町954
TEL 44-2836 FAX 42-6011
(KT) 090-7892-3827
(E) wasizawa@mocha.ocn.ne.jp
S58.024E

〈コメント〉
暮らしのコンサルタント ワシザワで保険代理店業をしています。木嶋と申します。鷺澤OBから中央会の素晴らしさを教えていただき、この度7月より入会しました。
中央会の活動を通じて、地域への貢献と自分自身の成長のため入会を希望しました。
若輩者ではありますが、皆様どうぞご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

副会長・専務理事ごあいさつ

広報委員会担当

副会長 小川敦弘



(株)ライトスタッフ 取締役
S42年2月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H17年度入会／H19年度 副委員長／
H21年度 委員長／H22年度 副会長

第37期副会長を拝命いたしました、(株)ライトスタッフ 小川です。一年間どうぞ宜しくお願いします。

昨年に引き続き同職に就かせて頂き大変身の引き締まる思いです。今期は広報委員会を担当させていただきます。

広報委員会はホームページ・ハンサムを通じ中央会の活動・考えを外部の方、OB会員の皆様へ知っていただく非常に重要な役割を持った委員会です。「新鮮で確実に」を心がけ、心待ちにしていた情報を皆様へお伝えしたいと考えております。

松尾委員長が立派に委員会活動を出来るよう、時には厳しく、たまに優しくサポートしていきたく思います。

最終年度「大好きな広報委員会！」思い残す事のない様、森協会長の想いを理解し、精一杯努めさせて頂きたいと思っております。

どうぞ宜しくお願いします。

総務委員会担当

副会長 土岐哲己



(株)西米商事 常務取締役
S42年4月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H16年度入会／H18年度 委員長／H19年度
県出向／H20年度 副会長／H21年度 県監事

総務委員会を担当いたします土岐哲己です。青年中央会も卒会年度ではあますが、2回目の副会長という重職を拝命することとなりました。今回は青年中央会の要ともいえる総務委員会の担当ということで、再度身の引き締まる思いです。

森協会長のもと、第37期の当会が一年間スムーズに運営することができるよう、また、福庭委員長が総務委員会をしっかりと運営できるよう、担当副会長としてサポートしていきたく思います。そして、卒会年度会員としての自覚を持って、この一年間を全うしていきたく思います。

皆様に置かれましては、引き続きご指導ご鞭撻いただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。

地域ビジョン委員会担当

副会長 長田賢一



(株)長田製麺所 取締役
S44年2月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H14年度入会／H16年度 副委員長／
H19年度 副委員長／H21年度 委員長

37期副会長を務めさせて頂きます長田製麺所の長田です。森協会長の下、会員皆さんが一年後に「俺(私)成長したな～」と思える様な中央会にするべく頑張らせて頂きますので、宜しくお願いします。

会とは、会員の参加があってこそ初めて成り立つものであり、尚且つ参加する為には企業が元気でなくてはならないと考えます。そこで各委員会が委員長の思いのもと、やりたい事を楽しく活き活きと活動が出来るよう、またそれを会長の思いである会員・企業そして中央会の『成長』に繋げて行き一人でも多くの会員が参加したくなる会になればと思います。

微力ではありますが一年間全力で会長を盛りたて、会員の皆様との潤滑油の役割が出来るよう頑張りますので宜しくお願いします。

政治経営委員会担当

副会長 須山裕文



須山醤油(株) 専務取締役
S44年5月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H15年度入会／H17年度 副委員長／
H21年度 委員長

第37期副会長を務めさせて頂きます須山裕文です。どうぞ宜しくお願いします。担当は政治経営委員会です。政治と経営の関係について委員長、委員会メンバーと共に勉強できることを今から非常に楽しみにしております。そして、森協会長の方針に沿って円滑な委員会活動が実現できるように精一杯フォローしてまいりたいと思っております。

スローガンは「輝～かがやき」から「成長」へと移ってまいります。私自身もそうですが、今年度一年間を通じて会員の皆様がさらに輝きを増し、更なる成長を成し遂げるために、全身全霊で与えて頂いた職務を全うしたいと思っておりますので、どうか宜しくお願いします。

人間力開発委員会担当

副会長 後藤公平



(有)後藤屋紙器 取締役営業部長
S44年6月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H10年度入会／H13年度 副委員長／H15年度 委員長／H16年度 県出向／H19年度 副会長(事務局長)

森協会長より副会長の職を拝命しました後藤です。皆さん、1年間よろしくお祈いします。

4年前は「蛮勇」と「知勇」のバランスを意識して時の年度に臨みましたが、気負いが強すぎて空回りしていたようにおもいます。今回2度目の同職に就くにあたり、「頑張らない」ことを自分のテーマに掲げたいとおもいます。

人間関係は釣鐘と撞木(しゅもく)のようなもの。強く打てば強く鳴るし、弱く打てば弱く鳴ります。副会長という究極の中間管理職を通じて、強く打ってもらえるような人間でありたいし、強く鳴ることが出来る人間でもありたいとおもっています。

三役同士が良い緊張感を持って、切磋琢磨しながら中央会運営にあたりたいとおもいます。哲ちゃんを精一杯支えます。

専務理事兼会計担当

副会長 岩田 剛



山陰酸素工業(株) LPガス部LPガスグループ長
S45年1月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H17年度入会／H19年度 副委員長／
H21年度 委員長／H22年度 副会長

第37期森協年度の専務理事兼会計担当理事を拝命いたしました岩田です。所属企業は山陰酸素工業です。1年間どうぞ宜しくお願い致します。4月の臨時総会以後、委員長・副委員長の決定、年間活動計画、収支予算の作成そして36期の総仕上げなど慌ただしい3ヶ月が過ぎ、いよいよ今年度が始まりました。

今年は森協会長と同じく委員会に配属されない立場となります。中央会を違った視点から見る事が出来そうでとても楽しみにしています。

青年中央会では会長をトップに、各委員会を引っ張る委員長が花形です。委員長の皆さんは思い切り躍動して、輝いて、そして成長されますよう祈念いたします。

第37期森協年度。全員で盛り上がっていきましょう！！



Kaike Triathlon

新入会員 トライアスロンに参加して

volunteer

木嶋康之 (H23.07入会)

この度、トライアスロンのボランティアに初参加させて頂きました。

戸惑うことや迷惑をかけてしまうこともありましたが、多くの皆様の協力で無事に終えることができました。

早朝の壮行会で出場する選手のみなさんにエールを送る際、周囲の緊張感や気合を身近に感じることができ、素晴らしい経験をさせて頂いたと思います。

ASでは限界に挑む選手の皆さんに感動し、自然と応援にも熱がはいりました。

また多くのボランティアのみなさんと選手のために作業でき、チームで一体となることの素晴らしさを改めて感じました。

夜になり片づけが終わると、自分自身にも大きな達成感があり、中央会の会員として参加できて本当に良かったと思いました。

永井拓末 (H23.03入会)

この度皆生トライアスロンに、初めてボランティアとして参加させて頂きました。選手の方々の個々の目標に向かって必死で走る姿、最後まであきらめない姿、強い意志を直に感じる事ができ「夢と希望を感じ、そして感動した」というのが一番の感想です。

ボランティア活動の参加を通して、いろんな方々と一緒に何かを成し遂げること、創り上げることは本当に充実感がありました。準備から大会当日の運営、後片付けまで多くの方が笑顔でされていたのも印象的でした。参加することでとても多くの精神的な報酬をいただけたと思います。

今年はまだまだ指示をいただきながらの活動が多かったので、来年以降は能動的に動けるようにしていきたいです。

吉村公男 (H23.04入会)

生まれてから18年間鳥取市で過ごしましたが、皆生トライアスロンを生で見るのもボランティアをするのも初めての体験でした。全国各地から猛者達が集まりトライアスロン発祥の地でスタートしていく勇姿に大変感動しました。

その裏で皆生トライアスロンを支えるボランティアの方々が、これほどまでにたくさんいることに気づき、その方々がいないければ成り立たないのだ、と改めて実感しました。何をするにしてもそうですが、物事は一人では出来ず、いろいろな人々が関わり合い作られていく事を改めて実感しましたし、それに携われたことに感謝しています。

佐々木 尚 (H23.02入会)

私はエイドステーション手前の交差点でポイント立ちをしました。通行の安全を守ることはもちろんですが、できる限り選手の皆さんを励ますことを心がけました。「ナイスファイト!」「もうすぐエイドステーションです!」と選手に笑顔で声をかけ続けると、疲労困憊のはずなのにニコリ笑って応えて下さる選手、「ありがとう」と返事をして下さる選手の皆さんから逆に元気を頂きました。

また、中部TSC・西部TSCの皆さんを始めとする、数多くのボランティアの皆さんのパワーにも圧倒されました。これほど大きな規模の事業が人の善意で成り立っていることに、ますます畏敬の念を抱きます。来年も必ず参加します。



スタート前壮行会

真夏の日差しが照りつけ始めた午前六時。選手の方々が続々とスタート付近に集合する中、中央会から出場する勇者たちを元気づけようと、トライアスロン壮行会が開催されました。本年は中部より6名、西部からは横山会員・宮崎会員が個人参戦

した他、長田会員・秋里会員・谷口会員・坪藤会員が『輝けTSC』として団体参戦。更に会員の中から団体戦へ福庭会員と後藤(公)会員が参加されました。中川トライアスロン壮行会団長と新入会員で結成された応援団によるエールは『中央会から参

加される選手全員にゴールしてほしい』との思いが選手に伝わる熱気の入った応援でした。早朝から多数の会員が集めたその光景は、改めて中央会の団結を確認できた壮行会でした。(記事:山内)

トライアスロン参加選手感想



宮崎大介会員
2年振りの皆生ということもあり、体重10キロオーバーで、まずは横綱級のまわしを何とか小結位にならないか?というところからのスタートでした。出ることに意味があると自分自身に言い聞かせ、例年の1/3位の練習量で、肝心のまわしは何とか関脇級まで落とし、いざ本番。灼熱地獄というご褒美も頂き、中央会チームの団体参加も刺激になり、例年の1時間以上多く楽しませていただきました。応援してくださった方々、ボランティアスタッフ、すべての方に感謝です。有難うございました。



横山友樹会員
去年の「雄飛」で「来年こそは皆生トライアスロンに決着をつけ、再来年はA Sで太鼓を叩いていた。」みたいなことを書きましたが、宣言どおり自分の中で「決着」をつけることが出来ました。個人参加804名中304位。タイム12時間5分58秒。目標の12時間は切れませんでしたが、この結果には大変満足しています。
今回4回目の出場で今年こそはと臨んだ今大会。ランの途中で何度も歩きそうになりましたが、その度に「人間力」という言葉が脳裏をよぎり「人間力は諦めない、歩かない」と自分に何度も言い聞かせ、とにかく走り続けることが出来ました。
やはり人間力開発委員会の委員長が歩いてたら格好つきませんよね。そうでなければ成し得なかった結果だと思っています。たくさんのご声援、誠に有難うございました。来年はA Sで一緒に頑張りましょう!!



長田賢一(スイム)
「実は辛かった!」の一言です。炎天下の中、遠く出したいくらい辛かったのですが、無事リレー出来た時は本当に安心しました。みんなでフィニッシュゲートをくぐった時は疲労感より達成感が満たされました。

谷口弘毅(ラン)
初めてフルマラソンを完走したことよりも、最後にチーム4人でゴールテープを切れたことが何よりも嬉しく、また一つ中央会を好きになりました。

坪藤博幸(スーパーサブ)
TSC選手の頑張りをみて感激しました。『来年は個人で出場したいと思います』そして、宮崎選手 横山選手に勝てるよう今から練習して頑張ろうと思います。



Team がんばり

※各選手より熱い思いの原稿を頂いておりますが、紙面の関係上、割愛させて頂いております。中央会ホームページにてトライアスロン特集を企画致しますのでご覧ください。

委員長ごあいさつ



人間力開発委員会

委員長 横山友樹

米子信用金庫 審査管理部
管理課 課長
S43年8月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H20年度入会
H22年度 会計担当理事

第37期人間力開発委員会委員長を務めさせていただきます横山友樹です。今期会長が掲げられたスローガンは「成長」です。そして、当委員会に与えられた目的は「人としての成長」です。私は「成長」の証は「変化」であると考えています。一年後、委員会メンバー全員に何かしら「変化」が表れ、「人として成長できたな」と思ってもらえるような活動が出来たら、と考えています。

また今期委員会の年間テーマとして、知識と行動は合致していなければならない、という意味で『知行合一』を掲げました。分かっているけど行動しなければ、分かっているのと同じです。委員長としてしっかり前を見据え行動していきたいと考えています。どうぞ一年間、宜しくお願いします。



政治経営委員会

委員長 谷口弘毅

谷口建築 代表
S43年3月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H19年度入会
H21年度 副委員長

第37期政治経営委員会の委員長を拝命いたしました谷口です。一年間どうぞ宜しくお願い致します。委員会のテーマを委員会名とは、結び付かない様な「一期一会」とさせてもらいましたのは、この委員会での出会いを大切にしたい、何をするよりもまずは委員会のメンバーが一つになりたいという私の思いです。第37期森協会長が、政治経営委員会に与えられた「企業人としての成長」と言う指針をしっかりと踏まえて、経営の知識と企業人としての政治への関り方を委員会の中でしっかりと勉強をし、その成果を会員の皆様にもしっかりと発信して行きたいと思っています。中央会に入会させて頂きまして5年目になりますが、委員長という大役を、あるがままの自分が自分の中で、何が出来ののかを沢山探しながら一年間頑張って行きますので、どうぞご協力のほどよろしくお願い致します。



地域ビジョン委員会

委員長 長谷川洋司

㈱染創 取締役部長
S46年6月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H17年度入会
H20年度 副委員長

第37期地域ビジョン委員会を務めさせていただきます長谷川洋司です。森協会長からお声を掛けていただけてから委員会デビューが近づくにつれ、日に日に責任の重大さを感じております。

今期のスローガンでもあります「成長」を軸に委員会に与えられた地域振興における中央会としての成長をもとに、委員会活動のテーマを「夢のカタチ」と掲げさせていただきます。地域振興における手段として主に「観光」「食」「スポーツ」などが挙げられますが、そこには「人」が必要不可欠なものと考え、キーワードを「人」とし、新たなカタチの地域振興を委員会メンバーとともに考えていきたいと思っています。

一年後、委員会メンバー全員で「良い活動でした」と、言えるようにがんばりますので一年間よろしくお願い致します。



広報委員会

委員長 松尾友雄

日成工業(有) 営業部次長
S45年7月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H19年度入会
H22年度 副委員長

第37期広報委員会委員長を拝命致しました松尾友雄です。宜しくお願いします。

歴代委員長が築かれた事を確認しながらその土台に松尾色を加えていき、その時々にあった情報をタイムリーに発信していきたいと思っています。私一人では、何も出来ません。委員会メンバーと共に切磋琢磨しながら、そして協力し合い考動していきたいと考えています。結果を恐れず、とにかく精一杯そしてがむしゃらに1年間がんばって参ります。「結果は後から付いてくる」と言われますように、1年後には委員会メンバー全員が今期のスローガンのように「成長」していればと思います。委員会メンバーと共に一生懸命がんばりますので、どうぞ皆様宜しくお願いいたします。



総務委員会

委員長 福庭貴志

(有)タイヤ館米子 代表取締役
S45年6月生まれ
〈中央会活動履歴〉
H14年度入会
H16年度 副委員長
H18年度 県出向

7月15日(金)に開催された総会懇親会は楽しんでいただけましたでしょうか。まだ、委員長として委員会運営もままならない時期に与えられる大きな試練です。やはり段取りが悪く、前日まで本田副委員長とあれこれやと確認作業ばかりしていました。きっと来年度の総会は「成長」して、段取り良くこなしているはずなんです。

今年度総務委員会のテーマを「Win(中央会) Win(自社) Win(自身)」としました。せっかくですので、PDC(S)Aサイクルを実践し、事業の一連のプロセスを通して若手人材育成も行い、最終的に中央会に貢献できればと考えています。縁の下の力持ちになるべくがんばります!1年間どうぞよろしくお願い致します。

平成23年度通常総会

平成23年7月15日(金)
ホテルサンルート米子



『平成23年度通常総会』が開催された。冒頭、北口会長より「先行きが見えない中、36期に掲げたスローガン『輝』を会員一人一人が光り輝き皆を照らし成果を上げて頂いた。人と人とのつながりを大に感じることができた活動に大変感謝いたします。」と1年間を締めくくる感慨に満ちた挨拶があった。

続いて、新入会員の木嶋康之会員にバッジが授与された。

議事に移り手島議長進行のもと、第1号議案・第2号議案が満場一致で承認された。特別功労賞の授与には、当会の発展に尽力された山根直前県会長に贈られた。続いて、精勤賞28名、皆勤賞20名の表彰があり、いよいよ委員会表彰を待つのみとなった。

北口会長より、会長特別賞に浅中委員長率いる輝委員会、優秀委員会に今川委員長率いる



健康委員会、栄えある最優秀委員会には、総務委員会に贈られた。「一致団結が中央会の醍醐味」と竹ノ内委員長から挨拶があり、平成23年度通常総会は閉会した。(記事:高塚)



卒会式



総会に続き卒会式が行われた。9名の卒会者の紹介があり、卒会証書と記念品が贈呈された。北口会長より「一人一人

に想いがあり何を話していいのかわからない」と思わずグッと目頭が熱くなる「ため」のあと「また今後もOB交流会等にもご参加いただき、我々を叱ってください。お体に気をつけて!!お疲れ様でした。」と祝辞を述べられた。卒会者を代表して松原毅 新OBより「思いを形に。思ったことを一生懸命やってください。」とご挨拶いただいた。以上で閉会と思いきや、卒会者の方々から現役会員にバッジを授与するサプライズがあり、会場内が

歓喜に包まれ卒会式は閉会した。

最後に卒会者の皆様、ご卒会おめでとうございます。益々のご活躍をお祈りいたします。(記事:高塚)



懇親会

総会・卒会式に続き、多数の来賓・OB・B会員にご出席いただき懇親会が盛大に開催されました。



冒頭、第37期の船出を演出するオープニング映像ののち、森脇会長から「今期のスローガンは『成長』と発表があり、人としての成長(モラル、コミュ

ニケーション能力)・社会人としての成長などを目指していきたい」と熱く抱負を述べられた。

御来賓にご挨拶いただき、野坂米子市長の乾杯の音頭で懇親会がスタートした。

今回の目玉企画として中川会員所属のすし弁慶による「マグロの解体ショー」が行なわれ、握りたてのお寿司に会場は騒然となった。



宴が盛り上がる中、第37期の新役員紹介・卒会者紹介が行われた。

(記事:足立)



トライアスロン壮行会



毎年恒例となっている皆生トライアスロンの壮行会が行われた。今期から中央会団長が佐々木会員から今川会員に引き継がれ、フレッシュな新応援団のもと、宮崎会員・横山会員・チーム「輝けTSC」・「チームやんばい」の出場選手計8名へ熱いエールが送られた。

各選手はトライアスロンに向けての抱負と大会への意気込みを大いに語った。

また、手島新OBから今年2月以降に入会した新入会員(佐々木(尚)会

員・永井会員・吉村会員・足立会員・木嶋会員)の紹介が行なわれた。

御来賓・OB会員をお見送りした後、卒会者に感謝を込めての胴上げが惜しまれつつも行われ、会は大盛況の中、閉会となった。(記事:足立)



鳥取県中小企業青年中央会 第37回通常総会

平成23年7月25日(月)
ホテルモナーク鳥取



「平成23年度鳥取県中小企業青年中央会通常総会」が開催されました。冒頭に西根県会長より「早いもので1年があつという間に過ぎました。私が担当させて頂いた平成22年度は『維新大志』というテーマのもと、新しいことにチャレンジをしてきました。役員の方々には大変ご尽力いただき、誠にありがとうございました。

新しい期にかわりますが、これからも皆さんで力を合わせて平成23年度、50年後、そして100年後も変わらず活発な活動が継続することを願っています。」とご挨拶いただきました。次第は議事に移り、全ての議案が満場一致で無事可決承認されました。平成23年度の県会長に中部の山上会員、そして18名の新役員が選出されました。テーマを「終結×共感×融合」スローガンを「共に学び、共に成長する」と決めました。「会員全員のベクトルを合わせ、鳥取県内の地域、業界、年齢、性別の垣



根を越え各地区の活動をし、会員の皆さんが中央会に入ってよかったと思える事業をしてまいりたいと考えています。ご協力のほど、どうぞ宜しくお願い致します。」と山上県会長よりご挨拶を頂きました。



長から山上県会長へ、県会長の鍵の引き渡しが行われ、熱い抱負を語られました。「当会第37代県会長を拝

命いただきました。37年前、私はまだよちよち歩きの子供でした。そんな頃から中央会の先輩方が活躍され、今に至ることを大変感謝すると共に、使命感を持って邁進したいと思っています。現在の社会情勢は決していいとは言えません。そんな時代だからこそ、私たちは見た目や年齢ではなく精神の若々しさでこの荒波の航路を乗り越え、この鳥取を盛り上げる!これが中央会に課せられた責務ではないでしょうか。」続い

て東部・中部・西部の会長ならびに役員の方々が、今年度の抱負と活動内容について元気よく述べられました。

「小さい県だからこそ団結して挑戦していく!大企業に負けない精神で向かってゆけ!我々中小企業の発展が一番の地域貢献になる!」そんな熱い言葉が沢山飛び交い元気ある素晴らしい懇親会となりました。

(記事:遠藤)

